

『輝く明けの明星を仰ぐ』 ヨハネの黙示録22章10～17節 2016.12.18(聖日礼拝説教より)

『わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。』

ヨハネの黙示録3:11

この二千年で全世界に知れ渡ったクリスマス！しかし闇の世に輝く救い主をどれだけの人が、本当に知っているのだろうか？

①闇に輝く明けの明星！「わたし、イエスは…輝く明けの明星である(16節)」！この世は今なお闇だが朝は近い！『やみがあなたがたを襲うことのないように。やみの中を歩く者は、自分がどこに行くのかわかりません。光がある間に、光を信じなさい(ヨハネ 12:35～36)』と主は言われる。バークレーは、この世に3つの闇があると言う。①**絶望の闇**…思いがけない病、不慮の事故、突然の災害…神の支えがなければ耐えられない闇がくる。この方を仰いでこそ人生の闇は消される！『わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つ(ヨハネ 8:12)』。②**死の闇**…医療も福祉も限界がある。難病、障害…この世のどこに救い？どこに希望？ラザロの墓の前で「イエスは涙を流された(ヨハネ 11:35)」。人を悲しませ、絶望に追いやる罪と死から救われる慰め主にこそ希望がある！復活のキリストを仰ぐ時、死の闇は消える！復活の主こそ、死の闇に夜明けを告げる。③**疑いの闇**…最も深刻な闇！罪の本質は「疑い」。神の言葉、その救い、人の慰めも信用できない！この疑いは信仰者(教会)の中にさえ起こる(疑い深いトマス)。『不正を行う者はますます不正を行い…聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい(黙示録 22:11)』。神は常に正しい道を示し、主に立ち返るよう迫るが、それを強要しない！人は人生の幸不幸を誰かのせいにしたがるが、祝福も呪いもあなたが決めている！疑いの闇は、キリストを仰げば明るく道が照らされる！どんな失敗も、どんな躓きも、どんな不幸と思える出来事も、神の最善を信じ、常に主が、私・家族・教会・人生にとって一番良いことをされると疑わず主を仰ぐ時、闇は消える(♪新聖歌 335「光に歩めよ」)。

②見よわたしはすぐに来る！信仰者の究極の安心・最高の希望は、キリストの再臨！「すぐに…」とは「突然・思いがけず」の意。神が、それがいつなのかを知らせないのは、主がいつ来られても目を覚まし、救いの完成を信じ、闇の世で輝く神の子として生きるため。万物の終わりに主仰ぐ者は、祈り、整えられ、互いに熱心に愛し合い、赦し合う(Iペテロ 4:7～9)。

★暗いと不平を言うよりも、進んで明かりを灯す一週間とするために、あなたに何ができるか？